

全労連社会保障闘争本部ニュース

NO.155

全労連社会保障闘争本部発行

2021年4月22日

病床削減推進法案の廃案を いのち署名 9万7774筆 累計 34万2374筆 (4月21日時点)



4月21日(水)、全労連・中央社保協は、病床削減推進法案の参院厚生労働委員会審議入りを前に、徹底審議と廃案を求める緊急院内集会と署名提出を参議院会館で行いました。

院内集会であいさつをした、黒澤幸一事務局長は、「医師・看護師の絶対数が不足している、医師の長時間労働を認め、病床削減を行う法律では国民の、いのちは守れないと強調。廃案に追い込もうと」述べました。4月7日(水)に衆議院厚労委員会で採択された「医療法等一部改正案」は、「医師の働き方改革」と「医療提供体制改革」と称して、病床確保どころか、人員不足であることを無視して、「医師の長時間労働」とタスクシフト、「病床削減」をすすめるものです。

今必要なのは人員増と財政支援

医療現場の声を代表して、日本医労連の森田しのぶ中央執行委員長は、「衛生材料の不足、PCR検査の不足、日常生活等、様々な行動制約があるため、ストレス増から、メンタル不全が増加している。今、必要なのは、効率優先ではなく人員増と、財政支援だ。」と訴えました。

自治労連の高柳京子副中央執行委員長は、「病床不足が原因で、保健所職員がいのちの選択を迫られる等、過大なストレスがかかっている状況、ハードワークで若い専門職の離職が続いてる」と訴えました。

中央社保協の山口一秀事務局長は、「菅政権は、自助・共助と自己責任論をもとに、社会保障の責任を放棄しようとしていると、世論に訴えようと」強調しました。

廃案目指し一緒に一立憲・共産党からの連帯のあいさつ

緊急院内集会には、日本共産党の清水忠衆院議員が「社会保障優先の予算、国政に変えよう」と連帯のあいさつの他、立憲民主党の石垣のりこ参議院議員（いのち署名：紹介議員）は、メッセージの中で、今法案の問題点を指摘し、「医師や看護師、医療の負担増を防ぐことは、コロナ禍での医療を守り、患者のいのちを守ること。医療者のいのちも、患者のいのちと等しく守られるべきものなのは自明です。国会会質疑や政治活動を通じ、いのちと健康を守り、誰もが安心できる医療を確保するため、ともに頑張ること、一緒に取り組んでいきましょう」と連帯のメッセージを寄せました。

会場には、立憲民主党・川田龍平参議院議員（いのち署名紹介議員）、日本共産党・倉林明子参議院議員・宮本徹衆議院議員（いのち署名紹介議員）の秘書の方々も参加されました。



当日の昼は、国民大運動実行委員会、安保破棄中央実行委員会、中央社会保障推進協議会の定例会行動を参議員会館前で行い、コロナ禍から国民のいのちや暮らしを守る対策の実施と、医療や農業など国民生活を破壊する政権からの転換を求めました。

午後からは、参議院議員厚労委員 25 名へ、「医療法等一部改正案」の審議に関するお願いの要請を行いました。

【YouTube】 集会の内容は以下へアクセスすると視聴できます。

<https://youtu.be/hReGvQon208>